

平成 21 年 3 月 30 日

3 月 31 日～ 期間限定発売

和と名園の宇治抹茶を使用した香りゆかしいシュークリーム

京都の名茶園「丸久小山園」の一番茶のみを使用した宇治抹茶を
清々しくなめらかなクリームに仕上げました

私ども洋菓子のヒロタでは「にっぽん全体を元気にしよう！」を合言葉に『ディスカバージャパン』という試みを行っています。

これは日本各地の「名産品」を発掘し、シュークリームやシューアイスへと商品化して首都圏・大阪圏に紹介。全国的な知名度はまだあまり高くない素材にスポットを当てることで、産地の活性化を促進しようというものです。“地方を元気にすることで、にっぽんそのものの活力を上げていく”ことを狙いとして、日々原料探求、商品開発に取り組んでいます。



若草の季節。さわやかな気候にふさわしい素材として今回、私たちが注目したのは緑香る宇治抹茶。抹茶の気品あふれる香り、清々しい風味を際立たせたクリームに仕上げるためにさまざまな茶葉を試した結果、丸久小山園と出会いました。

元禄年間に創業以来 300 余年の伝統を持つ丸久小山園は、品質本位の茶づくりで名高い茶園です。

丸久小山園でていねいに仕上げられた、さわやかな香りが際立つ一番茶。新茶とも呼ばれる一番茶を 100%贅沢に使用し、さらに玉露を加えて旨みをいっそう引き出しました。この茶葉本来の心地よい苦味が楽しめるなめらかなクリームを、ふわふわのシュー皮で包みこんで完成させた極上のシュークリーム！日本のおいしさが、フランス菓子であるシューとみごとに融合し、新たな味わいを生み出した逸品です。

雅やかな和の味わいが存分に楽しめるシュークリームに、ぜひご注目ください。



商品概要>>>

商品名：オリジナルシュークリーム 京抹茶

内容量：4 個

販売価格：300 円（税込）

販売期間：2009 年 3 月 31 日～2009 年 5 月 30 日

深くておいしい、お茶の世界

～日本で、世界で。愛されるお茶、伝統の茶文化～



紀元前から楽しまれていたお茶

緑茶、紅茶、ウーロン茶などお茶にはいろいろありますが、これらはすべてツバキ科の常緑樹であるチャノキの葉を加工した飲料です。チャノキは中国・雲南省の南部あたりが原産地だろうと考えられています。

中国では本当に古くからお茶が楽しまれており、記録によると紀元前の漢の時代には既に飲用されていたようです。そして唐の時代（618～907年）には中国全土にお茶を飲む習慣が広まっていました。

将軍が認めた宇治茶のおいしさ

このお茶が日本に伝えられたのは奈良時代の頃といわれています。

平安時代には最澄や空海が唐から茶を持ち帰り、飲用法を伝えました。

そして1911年。茶祖ともいわれる栄西禅師が中国（宋）から持ち帰ったお茶の種子を、京都の明恵上人（みょうえじょうにん）に送りました。お茶の生育に適した風土を求めて川霧の深い宇治での栽培がはじまったのです。その後、次第に宇治茶の評判は徐々に高まっていきました。

1390年頃の室町時代。時の将軍・足利義満は宇治茶にほれ込み、自ら茶園をつくってお茶の栽培を奨励しました。これにより、宇治茶は天下一の茶どころとして広く知られるようになりました。

さらに豊臣秀吉は宇治の茶師を援助し、徳川の将軍家は新茶を求めて江戸～宇治間を往復する「お茶壺道中」を毎年欠かさず行ったりと、時の権力者に大切にされ、宇治茶は茶の湯の文化と不可分のものになっていったのです。

そして今日。日本各地で行われているお茶の栽培技術や製茶法のうちの多くが、宇治発祥のものといわれています。

多くの人に愛され、大切にされてきた宇治茶を支えてきたのは、宇治の製茶家たちのたゆまぬ努力があったからこそでしょう。

年月を経ても変わらない抹茶の魅力は、現代においてますます増しているようです。



「日本に住んでいてよかったな」と思える至福の一品を、シュークリームで気軽に楽しめる HIROTA のオリジナルシュークリーム。抹茶の香り・旨みはそのままに、幼いお子様からご年配の方まで、年齢・性別を超えて誰もが楽しめるおいしさを詰め込みました。

清々しさにあふれた味わいをご堪能ください。

※写真はすべてイメージです。

<本件に関するお問い合わせ先>

21LADY株式会社 経営企画担当（倉田、薬師寺） 03-3556-2121